



〒104-0044
東京都中央区明石町10-1
聖路加国際大学礼拝堂

TEL 5550-2416
TEL 5550-7043
FAX 5550-7070
E-mail: chapel@luke.ac.jp
URL: <http://nssk.org/tokyo/church/luke>



聖書に学ぶ会

リモート (Zoom) で行っています。
第1・第3木曜日 午前10時 新約聖書 (上田司祭)
第2・第4火曜日 午後5時30分 旧約聖書 (関司祭)
ご関心のある方は、チャペルにお問い合わせください。

巻頭メッセージ

わたしたちは一人一人の物語を歩んでいる

礼拝案内

月・火・木・金曜日

■午前8時30分 朝の礼拝 トイスラーホール

水曜日

■午前8時30分 聖餐式 トイスラーホール

※第2水曜、第3火曜、第3水曜の礼拝は午前8時45分～

日曜日

感染予防のため休止になる場合があります。

■午前7時 聖餐式 トイスラーホール

■午前10時30分 聖餐式・説教 臨時チャペル
感染予防対策のため予約制で行います

■午後5時 夕の礼拝 トイスラーホール

巻頭メッセージ

わたしたちは一人一人の物語を歩んでいる

司祭 シモン・ペテロ 上田憲明

旧約聖書の創世記を読んで、そこに出て来る族長たち、アブラハム、イサク、ヤコブの物語は、興味深く、考えさせられることもいろいろある。その中で、ヤコブ(またの名前をイスラエル)の物語の一部として、十四章ほどの長さでヨセフ物語が残されている。ヨセフの物語は、それ独自としても、ミニ小説のようで、波乱万丈のヨセフの人生の歩みを読むのはとても面白く、自分だったら、こういう場合、どうするだろうか? どう感じるだろうか? とつい想像してしまう。第四十五章で、かつて、妬みのために自分を奴隷として売ってしまった、兄たちと会話する場面は、ずっと読んでくると思わず涙ぐんでしまうことが多い。きつと、長い年月の間、自分の辛い状況の中で、兄たちが自分を奴隷として売ったから、こういうひどい目にあっているのだ、と恨み骨髄だったのではないだろうか。しかし、自分がエジプトで総理大臣のような地位につき、エジプトを始め、周辺世界における今後の行方を考え、巨視的に眺めることのできたヨセフは、ふとその目を自分の歩みにも当てはめてみたのではないだろうか。そこで、気がついたことは、もし、自分が奴隷として

売られなかったら、苦勞しながらエジプトの文化や言葉に慣れなかったら、冤罪をかけられて牢屋に入らなかつたら、こどもの時から夜見た夢を覚えておいて、それについて思い巡らす習慣がなかったら、どれを取っても、今の状態に行き着かなかつたことに気がついたのだろう。自分が苦勞し努力したこともいっぱいあつたけれど、それ以外の事がすべて整わなかつたら、今はないということに。父親をはじめ、家族が何年にも渡る飢饉の中で生き延びるために、神さまが自分をあらかじめ、ずっと前にエジプトに送つてくださり、長い年月の末、今の地位に就かせてくださった。人の思いも悪意の行動さえも、神さまはすべて用いて、救いをもたらしてくださる方であることにヨセフは気づいていったのだろうと思う。

わたしたちは一人一人、自分の物語を歩んでいる。そしてそれは他の人たちの物語と密接にしかも複雑に絡み合いながら、進んでいくものなのだろう。神さまがそれらをすべて素晴らしいものにしてくださるように。そしてそれに私たち自身も気づいて、感謝し賛美していけるようにと願っている。